

第 14 回 静岡県道路技術審議会 会議録

日 時	令和 7 年 9 月 2 日（火） 15:00～17:00
場 所	静岡県庁 別館 8 階 第一会議室
出席者 氏名	会長 鈴木 温（名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科 教授） 委員（五十音順） 石川 良文（南山大学総合政策学部総合政策学科 教授） 木村 美穂（きむら工房 代表・デザイナー） 椎野 修（国土交通省中部地方整備局 静岡国道事務所長） 末吉 喜恵（NPO法人よしよし 理事長） 鈴木 美緒（東海大学建築都市学部土木工学科 准教授） 釈尾 美咲（静岡県警察本部交通部交通規制課長） 松本 美紀（静岡理工科大学理工学部土木工学科 准教授） 溝口 玲子（元静岡県PTA連絡協議会 副会長） 事務局 山梨道路局長、塩澤道路企画課長、岡村道路整備課長、川口道路保全課長、 白井道路企画課長代理、石神道路整備課長代理 他
議 題	○意見聴取 （１）次期「みちづくり」骨子案 （２）道路の課題やニーズ等に関する意見聴取、意見交換 ○報告 （１）国道４７３号金谷相良道路Ⅱ工区の開通効果 （２）こどもを守る交通安全対策事例集 （３）道路横断排水施設の点検について
配付資料	次第、委員名簿、座席表 ・資料１ 次期「みちづくり」骨子案 ・資料２ 道路の課題やニーズ等に関する意見聴取、意見交換 ・資料３ 国道４７３号金谷相良道路Ⅱ工区の開通効果 ・資料４ こどもを守る交通安全対策事例集 ・資料５ 道路横断排水施設の点検について ・参考資料１ 静岡県が管理する県道の技術的基準等を定める条例 ・参考資料２ 静岡県道路技術審議会規則

(開会)

(道路局長挨拶)

○ 意見聴取

次期「みちづくり」骨子案

[事務局から、資料 1 により説明]

(石川良文委員)

- ・ 次期みちづくりの策定が令和 7 年度末を予定しているが、計画期間の初年度が令和 7 年度で良いか。
- ・ 道路ビジョンがおおよそ 10 年、道路重点計画が 4 年では、計画終了時点がずれるように見えるが、道路ビジョンと道路重点計画はどのような関係なのか。
- ・ P36 の自転車の円滑な走行空間の整備について、もう少し安全を強調した表現としたほうが良い。
- ・ これからの道路施策は維持管理が重要であり、点検ロボットや A I の活用は、予算が減少している状況から省人化の面でも重要であると考えるが、なかなか活用が進まないという説明があったが、具体的にどのような課題があるのか。
- ・ 渋滞対策のラウンドアバウトについて、具体的な説明がなかったが、静岡県ではどのような取組をしているのか。

(事務局)

- ・ 県最上位計画である総合計画との整合性から、令和 7 年度を計画初年度としている。
- ・ 10 年計画という考え方ではなく、今後おおよそ 10 年間の道路のあり方ビジョンとし、それを見据えた上で、4 年間、重点的に進めるべき施策を計画するという考え方としている。
- ・ 自転車の円滑な走行空間の整備の表現については御意見を反映させていただく。
- ・ トンネル点検における走行型画像計測技術については、昨年度に試験導入し、今年度から運用を開始している。A I を用いた路面解析については、本年 8 月より試験導入を開始しており、まずは従来の職員による目視確認と比較した際の効果の確認を行う予定としている。
- ・ ラウンドアバウトは県内で 9 箇所が設置されており、県道では 1 箇所が設置されている。現在、県道では 1 箇所が施工中で、その他数箇所を検討を進めている。安全・安心、円滑な交通確保の点から導入を推進していきたいと考えている。

(鈴木美緒委員)

- ・ P35 の基本方針 3 の豊かな暮らしを創出する“みちづくり”でウェルビーイング志向の高まりという記載があるが、基本方針の 3 本柱全てウェルビーイングに関係するものであるため、基本方針 3 のみウェルビーイングと記載せずに健康など文言を変える工夫をしたほうが良い。

(事務局)

- ・ 長期的な視点ではウェルビーイングは上位にあるため、文言を工夫し、次回の審議会で提案する。

(椎野修委員)

- 10年間のビジョンをどのように表現していくのか、今回の資料からは分からないが、静岡県の道路における10年後のあり方はどのようなものをイメージしているのか。
- 次期「みちづくり」の基本方針を3本柱で整理されているが、上位計画であるインフラビジョンで記載のある共創の視点を加えた4本とするほうが、整合がとれて分かりやすいのではないか。

(事務局)

- 本計画におけるビジョンについては、今後表現を含めまとめていく予定。次回の審議会までに検討し、改めて提案する。
- インフラビジョンにおける共創の視点については、3本柱を支える基盤の位置付けになると想定している。上位計画の策定状況を踏まえ、次回の審議会にて提案する。

(末吉喜恵委員)

- 道路施策とウェルビーイングは結びつけるのはなかなか難しい。道路が安全・安心であることは当たり前になっているため、現状より、道路を良くすることがウェルビーイングに繋がると考える。次期「みちづくり」における具体的なものはあるか。
- P33の安全・安心な生活を支えるみちづくりの課題として酷暑対策の視点を加えてはどうか。

(事務局)

- 社会インフラに対してウェルビーイングを指標化することが難しく悩んでいる。策定作業中の県上位計画において、ウェルビーイングがどのように位置づけされるのかを見据えて検討していく。
- 地域課題の変化として、酷暑についても検討していく。どのように施策、取組内容として記載するかは、全体のバランスを見ながら検討し、次回の審議会にて提案する。

(鈴木温会長)

- 道路は何かの目的ではなく手段になることが多いため、道路とウェルビーイングを直接結びつけるのは難しい。ただ、道路がないと目的にたどり着けず、ウェルビーイングが下がることになる。道路がウェルビーイングの実現に間接的に関わっていることを上手く表現する必要がある。

(溝口玲子委員)

- 能登半島地震の事例で、避難所までの道路が通行できない状況が数多くあるということを聞いた。静岡県でそのような状況とならないよう重点的な対策をお願いする。
- 静岡県に住んで良かったと思える、静岡県の道路づくりを進めていただくことがウェルビーイングに繋がると感じた。

(事務局)

- 御意見として承り、参考とさせていただく。

○ 意見聴取

道路の課題やニーズ等に関する意見聴取、意見交換

[事務局から、資料2により説明]

★事業、施策に関する意見聴取

(末吉喜恵委員)

- ・ 電柱のない道路施策を進めていただきたい。一部地域では無電柱化を進めているが、災害時の電柱倒壊、景観の点からも電柱はないほうが良い。

(釈尾美咲委員)

- ・ 県警で管理している信号機についても電柱と同様に、災害時の倒壊の危険、停電時の機能不全の恐れがある。ラウンドアバウトは信号がないため、災害対策として非常に有効であり、加えて交差点進入時に減速するため、交通安全対策としても有効であることから、取組を進めていただきたい。

(木村美穂委員)

- ・ 予算が限られていく中で難しいと思うが、道路を作る時に、利便性が重視され早く移動することが目的になるが、静岡県は富士山があったり、海があったり、景色が綺麗な場所があるので、途中で止まって景色を楽しめるスペースがあると良いと思う。それが、心に余裕が生まれて、豊かな暮らし、ウェルビーイングにつながっていくと思う。

(石川良文委員)

- ・ 県民は安全・安心な道路の需要が大きいのでないか。
- ・ 海外では、歩道、自転車道、車道が全て分離している道路もあり安全性が非常に高い。日本では経済面や土地の制約もあるため難しいかもしれないが、経済性のみで判断するのではなく安全面の考慮した整備を進める必要がある。
- ・ ヨーロッパではお店の外側に広いスペースがあり、食事や休憩ができる空間が整備されている。日本でも豊かで美しい道路空間が整備されれば良い。

(溝口玲子委員)

- ・ ペットや小学生は道路からの距離が近く、道路からの熱を感じやすい。酷暑対策で遮熱効果のある路面材料はあるのか。

(事務局)

- ・ 東京オリンピックで遮熱舗装が採用されているが、大人を対象としており、子供にとっては逆効果になるという話も聞いている。まだ開発途上であり、新技術が進んでくれば採用を検討していきたい。

○ 報告

(1) 国道４７３号金谷相良道路Ⅱ工区の開通効果

[事務局から、資料３により説明]

特に意見なし

(2) こどもを守る交通安全対策事例集

[事務局から、資料４により説明]

特に意見なし

(3) 道路横断排水施設の点検について

[事務局から、資料５により説明]

(木村美穂委員)

- ・ 富士宮で発生した道路陥没は、設置から何年経過したものなのか。設置からどのくらい経過すると陥没の恐れが出てくるのか。

(事務局)

- ・ 橋梁のように台帳整備はしていないため管理は出来ていない。

(木村美穂委員)

- ・ 管理できていないということは、今後同様の事案の発生増加が懸念される。今後は管理していくのか。

(事務局)

- ・ 今は道路台帳に記載し、設置年度等の管理はしているが、過去の設置経緯をさかのぼるのは困難。

(鈴木温委員長)

- ・ その他、特になければ、以上で第１４回静岡県道路技術審議会の意見聴取、報告を終了する。

(道路企画課長挨拶)

(閉会)